

2021年9月実施学修行動調査
学年 GPA を加えた分析結果について

杉野服飾大学・同短期大学部
教学企画調査室

1. アンケート実施期間 2021年9月10日(金)

2. 対象者人数 在籍者総数 800名 回答者数 664名 回答率 83.0%

学科名	学年	在学者数	回答者	未回答者	回答率
服飾学科	1年	159	135	24	84.9
	2年	166	136	30	81.9
	3年	177	145	32	81.9
	4年	163	126	37	77.3
服飾表現 学科	1年	24	21	3	87.5
	2年	25	23	2	92.0
	3年	21	17	4	81.0
	4年	17	13	4	76.5
短大	1年	22	22	0	100.0
	2年	26	26	0	100.0

3.実施方法 本学 manaba course を使用して行った。

4.今回の結果・分析について

1) 2021年度の結果と分析

アンケート結果に 2022年3月末までの1年間の学年 GPA 値を加え分析を行った。

① 各科ごとの学年別 GPA の平均値と割合 (図 1.2.参照)

- ・服飾学科: 2年生が GPA 値が 3~4 の高い学生の割合が少なく、平均値も一番低い。この傾向は、IR で調査を始めた時から示している。
- ・表現学科: 学年が進むにつれ、GPA 値の低い学生の割合が低く、GPA 値の高い割合が高い。平均値も学年が進むにつれ、高くなる。
- ・短大 : 0~1 未満の学生が 0 名である。2年生は平均値が若干高いが、1~2 未満の割合が高い。

② GPA の 2 群 (2 以下と 3 以上) と質問項目の相関関係 (表 1.参照)

各項目の 6~7 段階評価と学年別 GPA を 2 未満と 3 以上の 2 群に絞り、相関関係の分析

を行った。

対象人数：GPA 値 3 以上の学生 206 名（回答数の 31.0%）

GPA 値 2 未満の学生 156 名（回答数の 23.5%）

・GPA 値が高い学生

自主的に学修に取り組み、思い通りに学業ができている自覚がある。

大半の授業内容が理解できている。

学修時間が、確保できている。

授業に関係する項目について、成長を感じることができる。

自主的に調べることも多くなり、図書館も利用する。

大学での学修に満足度が高いため、本学に入学したことに満足する。

より専門分野の成長を希望する。

・GPA 値が低い学生

自主的に学修に取り組むことができず、思い通りに学習ができていない。

大半の授業内容が理解できない。

学修時間が、少ない。

上記のような「経験」から、

授業での成長を感じることができない。

大学での学修に不満があるため、全体に満足度が低くなる。

自分自身、専門分野への希望がもてない。

2) 2019 年度から 2021 年度の比較

コロナ感染症拡大前の 2019 年度から 2021 年度までの 3 年間の GPA を比較した。

（対象を 2019 年度に合わせ、服飾学科 2.3 年、表現学科・短大 1.2 年とした。）

① GPA の平均値と割合の推移（図 3.～図 6.参照）

平均値：全体では 2020 年度が高い。

各学科ごとの比較では、大学（服飾学科・表現学科）は同じ傾向を示し、短大のみ年々上がっている。（図 3.4）

各学科、学年ごとの比較では、表現学科 1 年生以外は、全て 2019 年度が低く、コロナ禍に入った 2 年間で高い値を示している。

表現学科の 1 年生のみ年々低くなっている。

割合：大学は 2020 年度は他の年度より、GPA 値の低い学生の割合が低く、GPA 値の高い学生の割合が高い傾向にある。

短大は、高い学生の割合が年々上がっている。

② GPA の時間項目別比較（図 7～図 9 参照）

上記①の GPA の結果は、どのような生活を過ごすことで出てきた値なのか、3 年間の時間項目の平均値を比較した。

全体では、授業時間は 2020 年度が低い値を示しているが、予習復習時間は授業時間ほど変化していない。授業と関係のない学修時間とアルバイトの時間は、2021 年度が大きく低い値を示している。

GPA を 2 群に絞り時間項目の平均値を比較した。

GPA の高い学生は低い学生より 3 年間全て授業時間・予習復習時間・授業と関係のない学修時間が高い値を、アルバイトの時間は低い値を示している。また、予習復習時間は授業時間に関わらず 3 年間同じような値を示している。

以上の結果を踏まえ、検討した。

① 2020 年度の GPA が高いのはなぜか？

・授業時間が少ないが予習復習時間は変わらないことから、1 教科に多くの時間を使うことができたのではないか。

*コロナ禍で課外活動やアルバイトの制限や移動の自粛が要請されたことなども、影響したのではないか。⇒大学の授業に集中した。意識が変化した。特に 2020 年度は、生活が大きく制限されていた。

*GPA 値の低い学生の中には、登校が困難な学生がいる。そんな学生にとって、遠隔授業は有効だったのではないか。

また、オンデマンド授業は繰り返し復習ができ有効であるという意見が、全国調査や、授業アンケートの結果にある。授業内容によっては、不登校学生への対応も含め、対面授業と遠隔授業のハイブリットな授業展開を検討することも必要なのではないか。

（*は、昨年と同じ考察）

② 服飾学科 2 年生の GPA 値が低いのはなぜか？

専門以外の教科も混在していることも考えられる。また、なんとか 2 年生になったがコース未所属の学生などは、モチベーションが上がらないのではないか。コースの学修が始まったばかりで、戸惑いもあるかもしれない。何年も同じ結果を繰り返しているので、きちんと検討が必要な時期だと思う。そのためには、今後はコース別の分析が必要だと考える。

③ 学生への対応

本学学生は、授業時間が多く、専門的な知識や技術が身につくため、授業に対する満足感が大学生活の満足感になっているのではないか。

授業へのモチベーションをあげ、「いかに自主的に、思い通り学業ができていく自覚を持たせるか」「自信を持たせるか」が、IR 調査を始めた時からの課題である。

今回の結果から、自主的に予習復習ができる環境を整えることが必要だと考える。

シラバスの予習復習の欄の充実、リアクションペーパー、manaba などを利用した資料、動画の掲載など。

今年初めて、図書館に関する項目が相関関係が有意であった。自発的に調べることが図書館の利用に繋がり、利用することで図書館の蔵書やサービスの満足にも繋がったと考える。

外国語や文書を書く力が GPA と相関が見られないのは、成長を実感する授業や評価課程が高学年に無いからではないか。レポートや論文、外国語でのレポート提出等が評価される機会があれば、違った結果になったと思う。

4. コロナ感染症拡大前と後の変化（図 10～図 21）

2019 年度、2021 年度に調査対象であった学年の経年経過の平均値グラフである。コロナ感染症拡大前と後でどのような変化があったか、各対象の担当教員は、参考にしてほしい。

<対象>

服飾学科 2018 年度生 2 年次と 4 年次

表現学科 2018 年度生 2 年次と 4 年次

表現学科 2019 年度生 1 年次と 3 年次

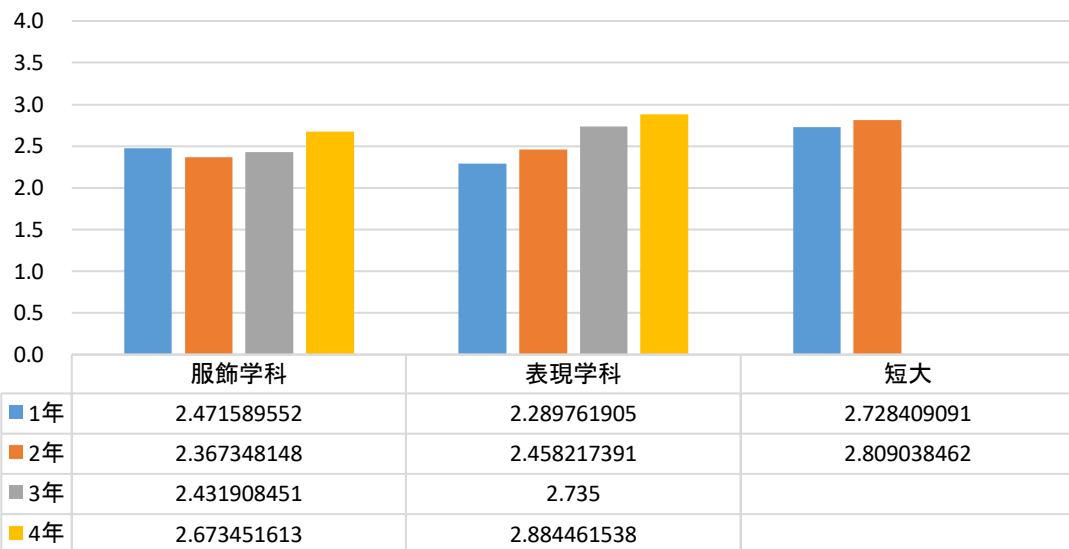
5. 今後の調査について

今回は、コロナ禍前の 2019 年度と比較するため同じ質問項目で行った。今後は、「全国調査」を基に、本学の教育内容に焦点を当てた質問項目を考えて行きたい。

対象を GPA 値の高低で絞る、経年経過の変化も検討することができた。2022 年度は、コース別に分析・検討したい。

結果を元に、各委員会・担当教員に検討をしていただきたい。

＜図1. 2021年度 学年別GPA平均値＞



＜図2. 2021年度 学年別GPAの割合＞

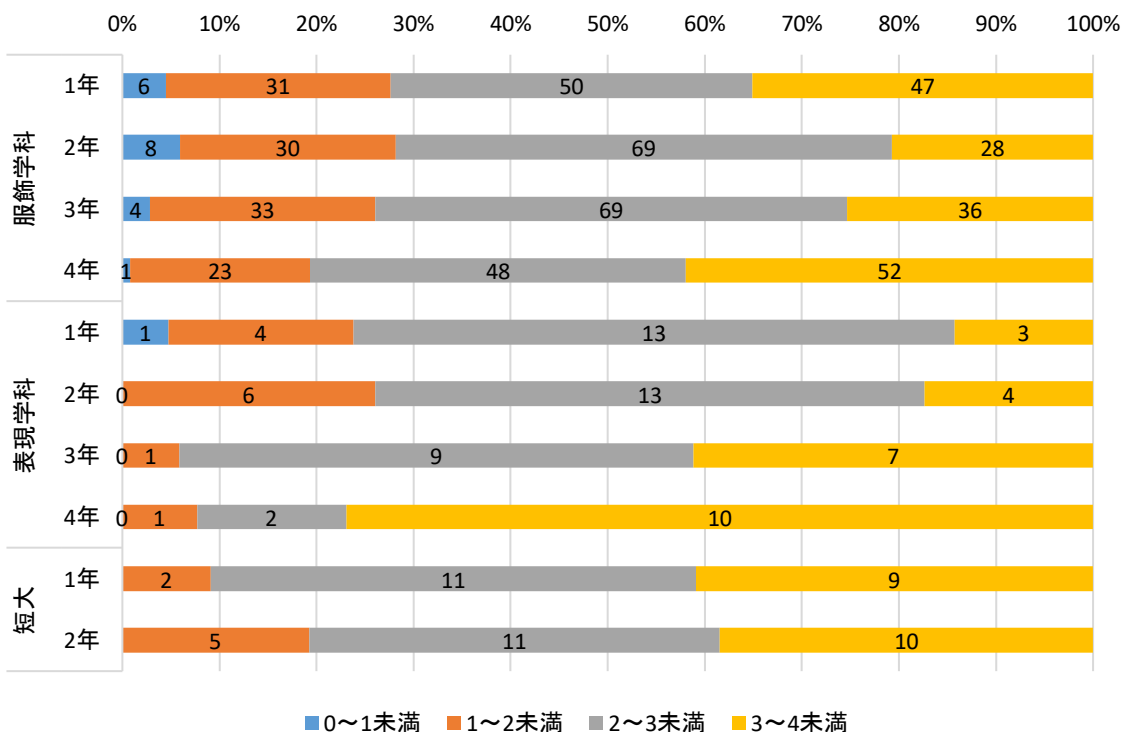
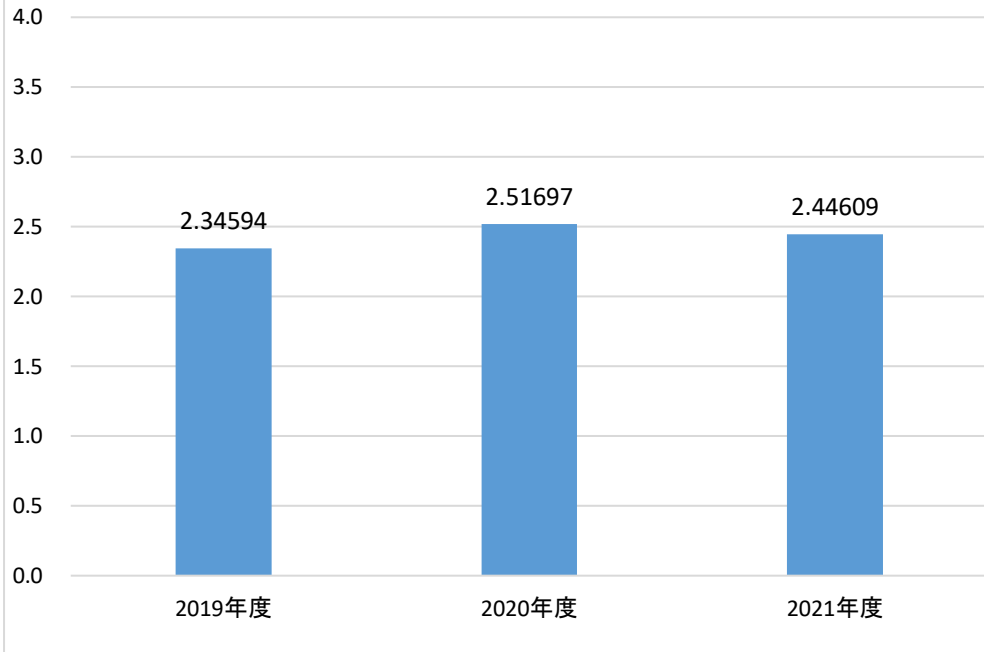


表1.2021年度 GPA(2以下と3以上)と相関が有意だった項目

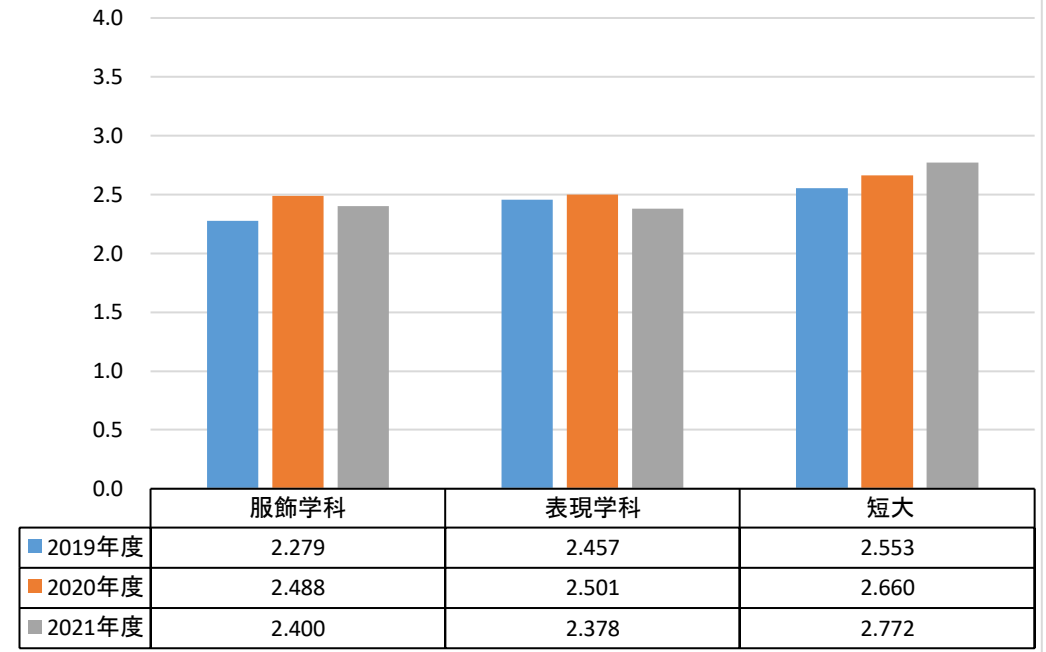
** 相関係数は1%水準で有意 * 相関係数は5%水準で有意

経験	①授業内での学生間のディスカッション	*
	③自発的に調べること	**
時間	⑧図書館の利用	**
	⑫自主的に探究すること	**
	⑭思い通りの学業ができている実感	**
	⑮展示会などに参加した回数	**
	⑦大半の内容が理解できなかった	**「—」
成長	①授業時間	*
	②予習、復習時間	**
	③授業と直接関係のない学修時間	**
満足	①分析する力	**
	②専門分野に関する知識	**
	③専門分野の技術力	**
	⑤プレゼンテーション力	**
	⑦パソコンを使う力	**
	⑧知識を高める力	*
	⑨展示会などに参加する意欲	*
	⑩コミュニケーション力	*
	⑪地域社会や世界への関心や理解力	*
	⑥外国語を活かす力	**「—」
	希望	④図書館の蔵書、サービス
⑩本学に入学したこと		**
希望	①専門分野の内容を学ぶ	**
	②幅広い知識や教養	**
	④学外での体験実習	*
	⑥教員や就職部に相談	*
	⑨資質や能力を伸ばす	**
	⑪ファッション関係の検定の勉強	**

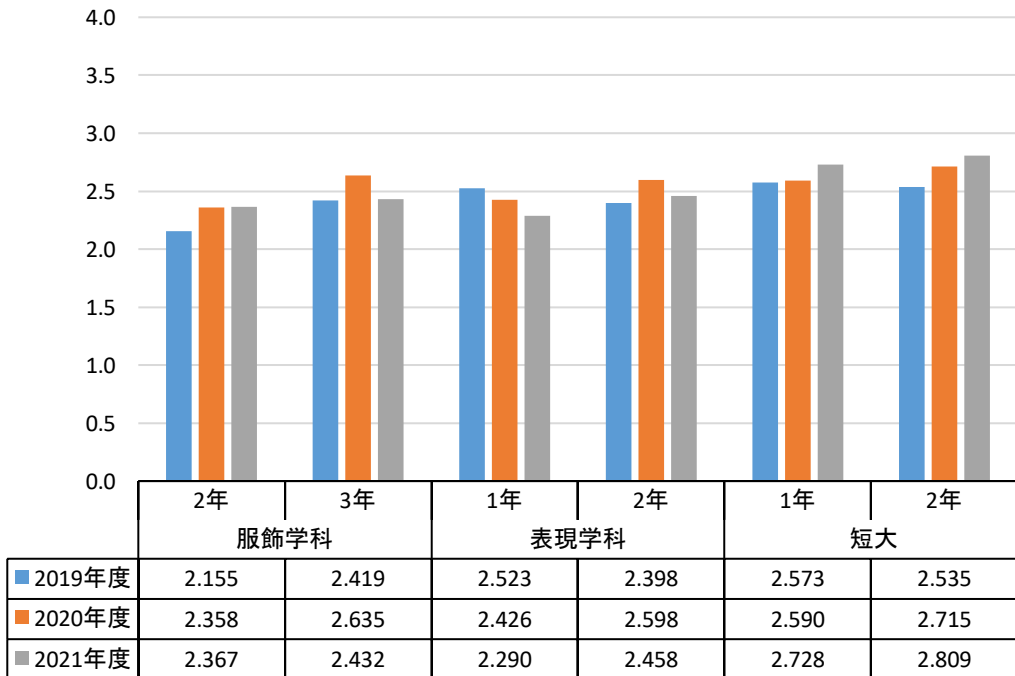
<図3. 2019-2021GPAの推移>



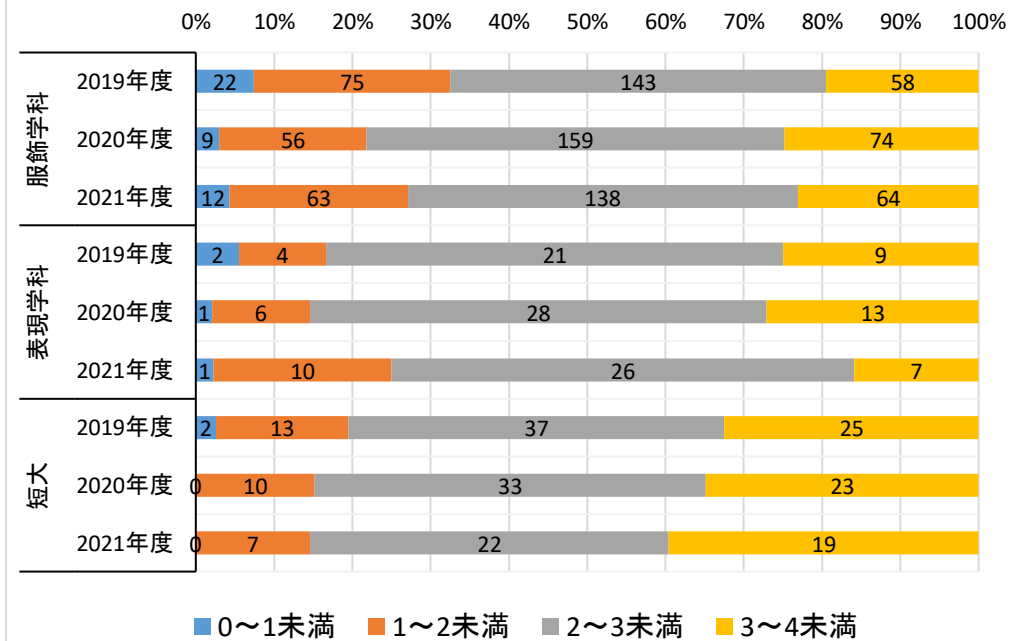
<図4. 2019-2021GPAの推移(所属別)>



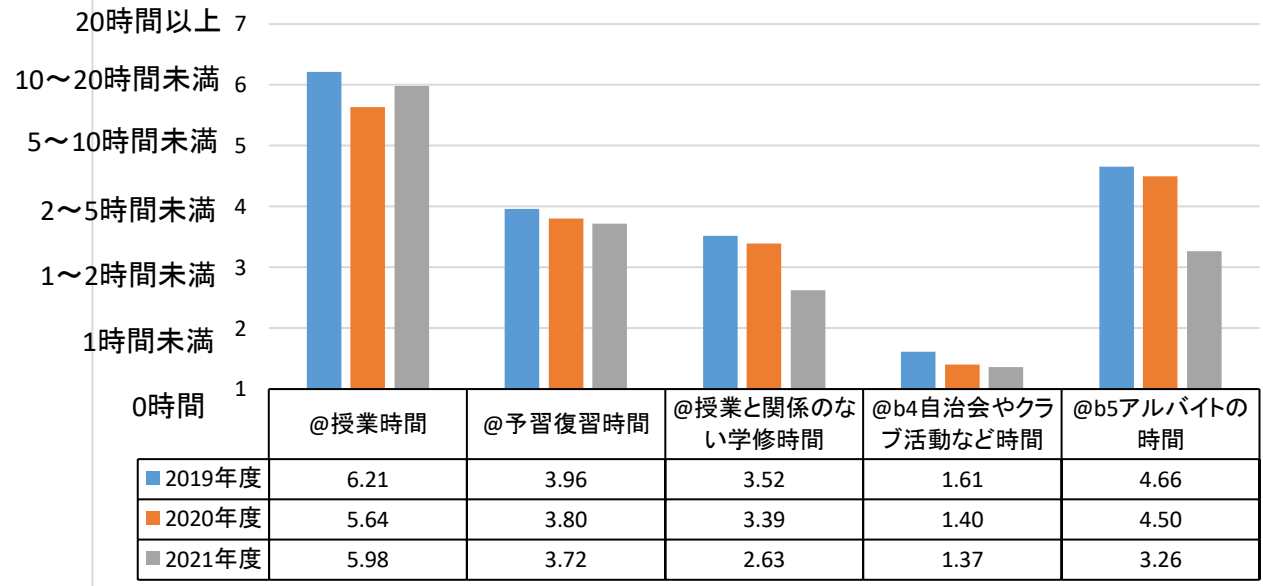
<図5. 2019-2021GPAの推移(所属学年別)>



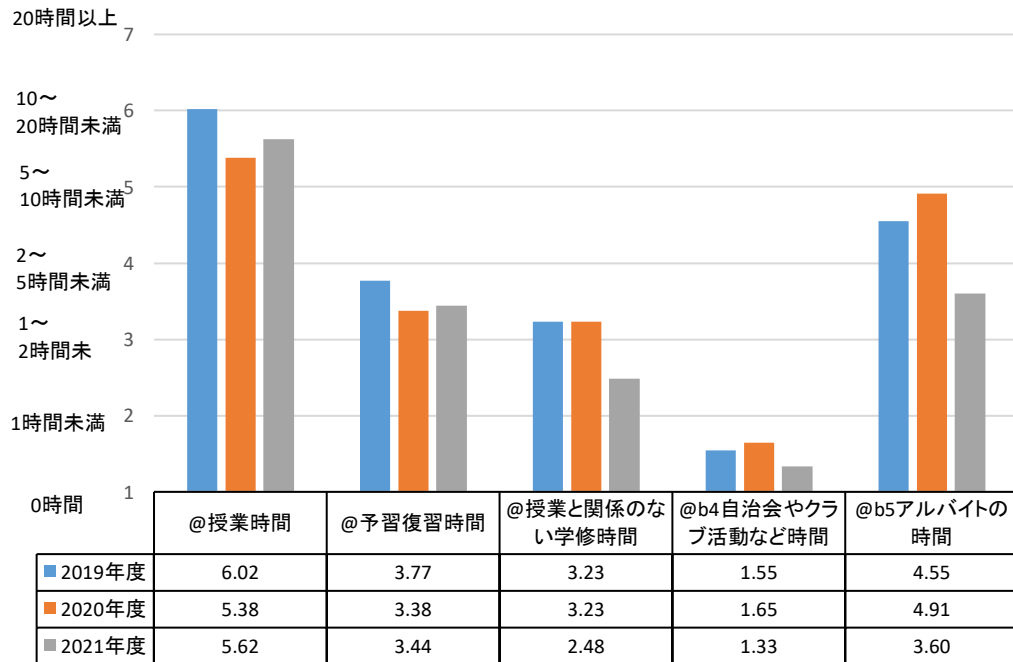
<図6. 2019-2021学年別GPA割合>



＜図7. 2019-2021時間項目の平均値比較＞



＜図8. 2019-2021時間項目の平均値比較(GPA2未満)＞



＜図9. 2019-2021時間項目の平均値比較(GPA3以上)＞

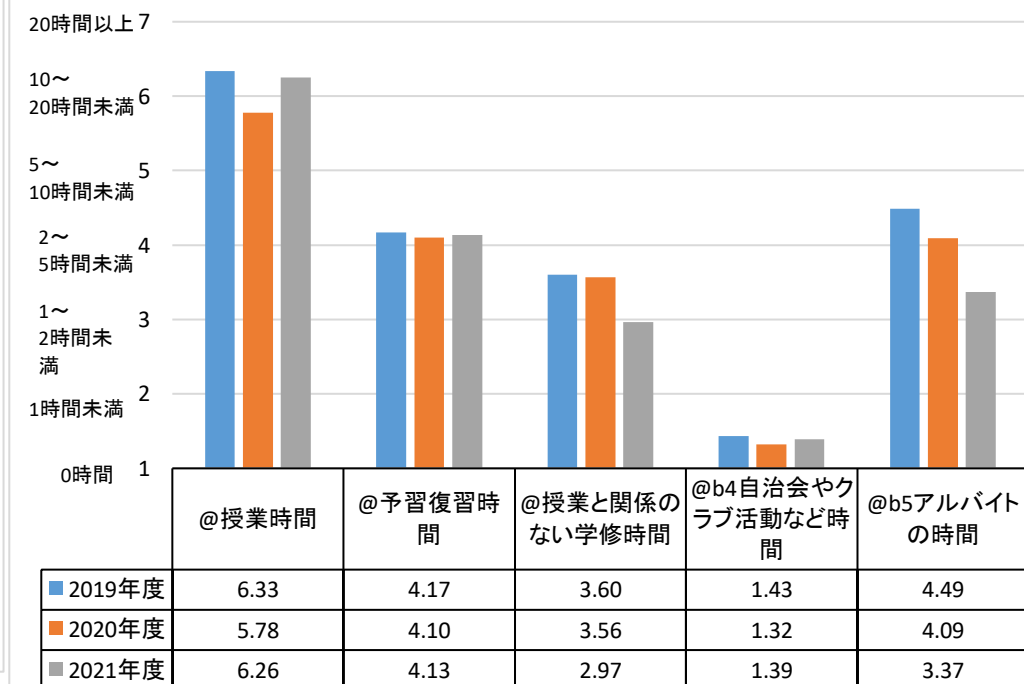


図10～図13 服飾学科 2018年度生の2019～2021の平均値

図10.経験

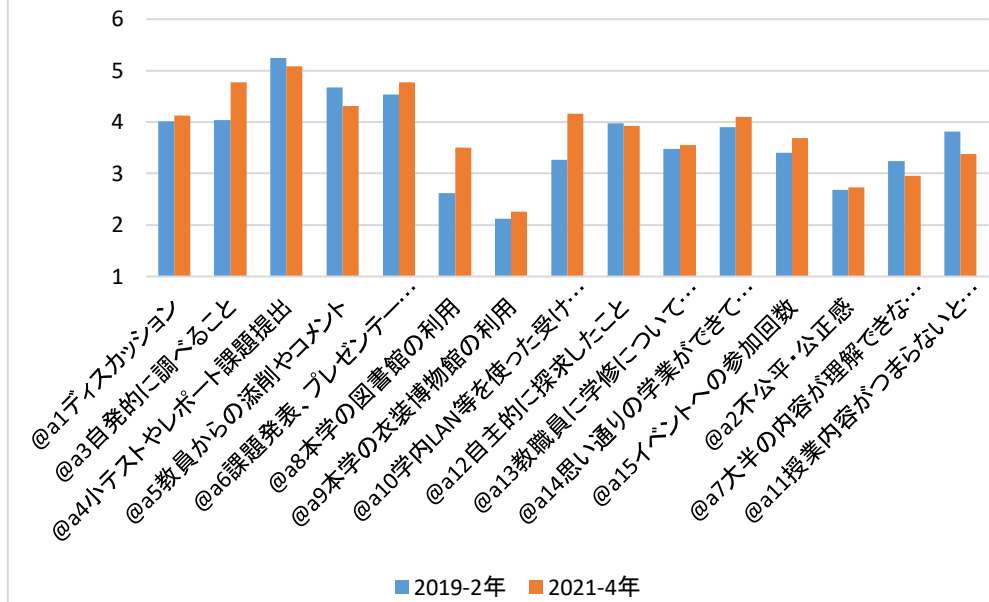


図11.成長

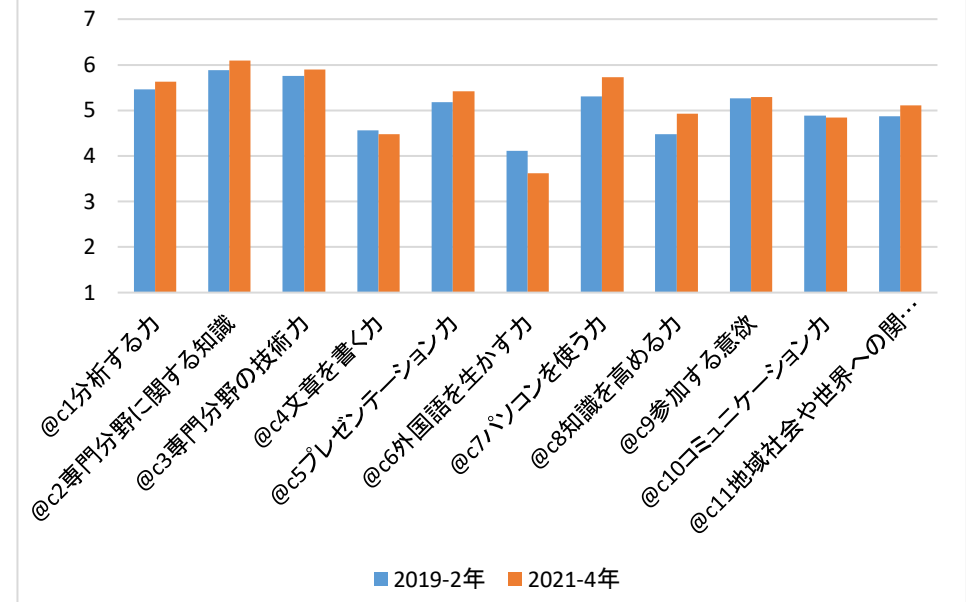


図12.満足

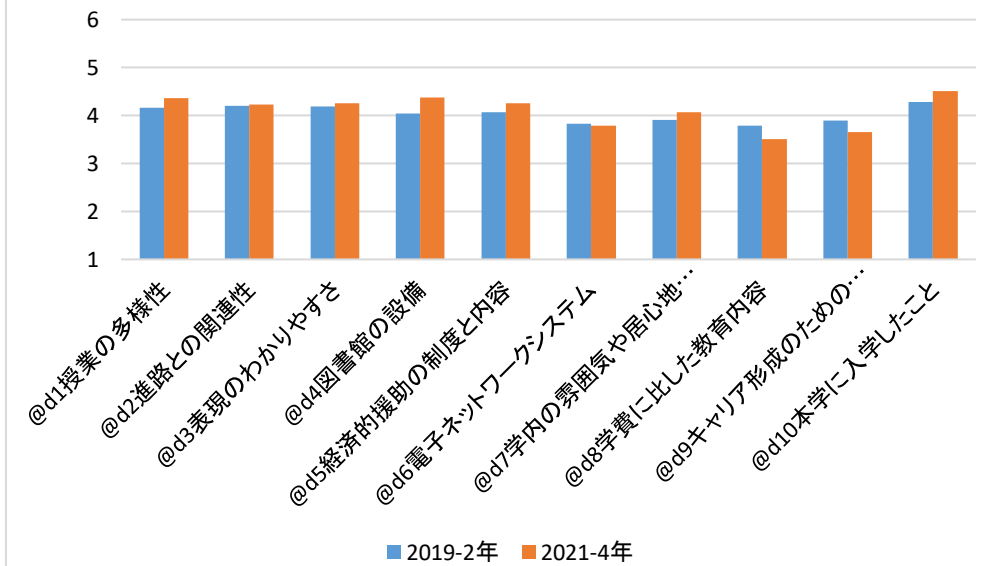


図13.希望

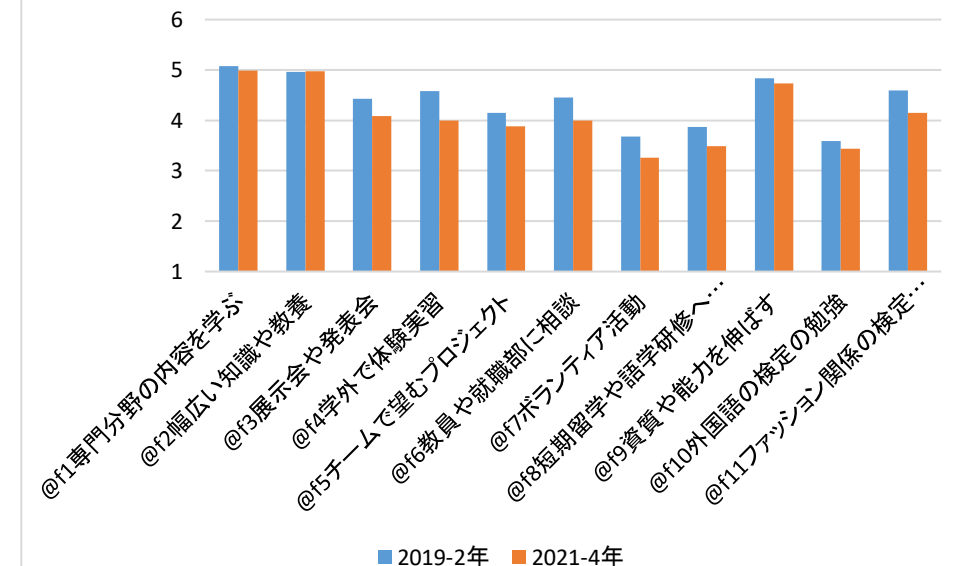


図14～図17 表現学科 2018年度生の2019～2021の平均値

図14.経験

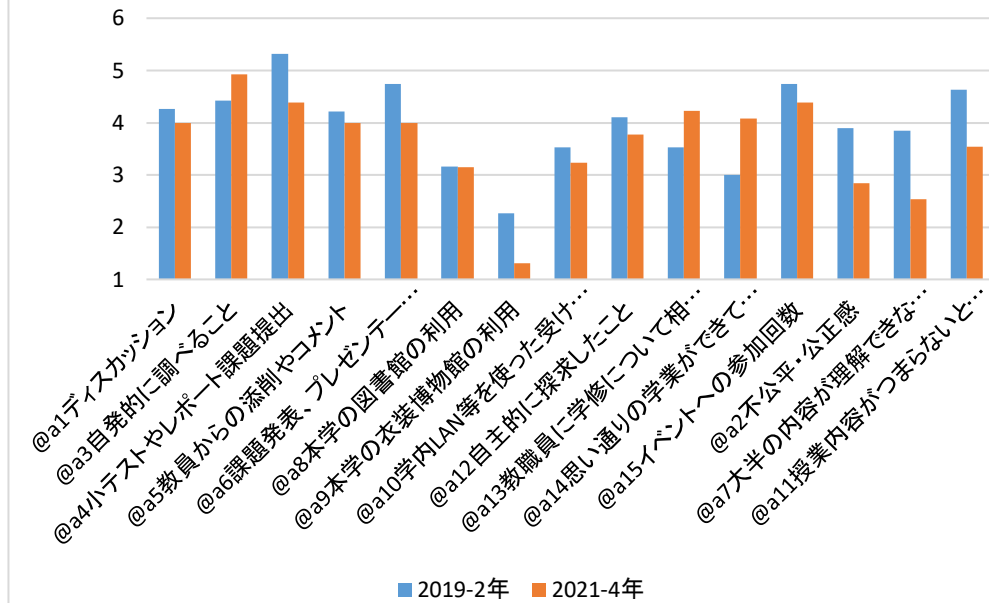


図15.成長

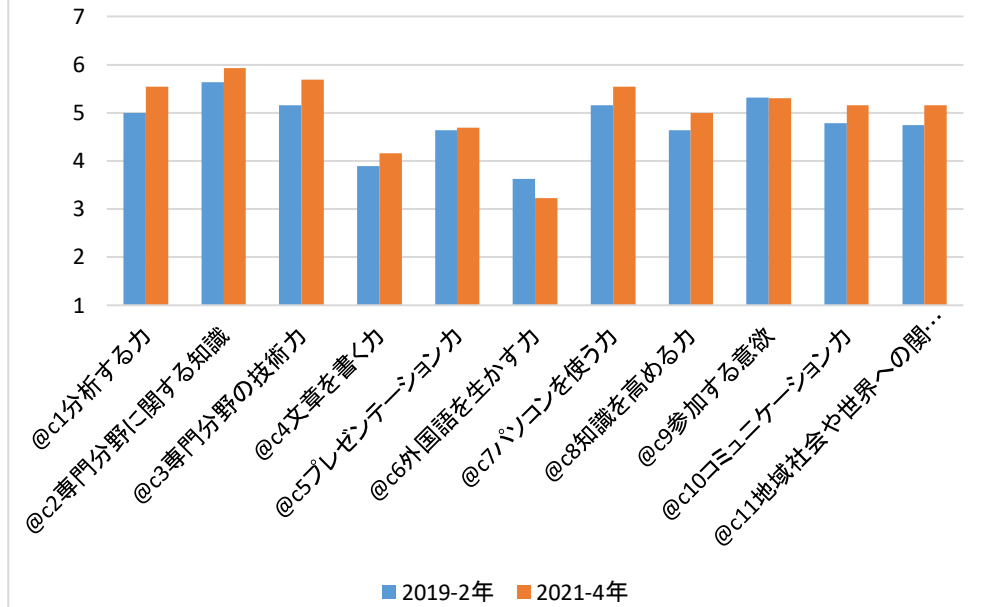


図16.満足

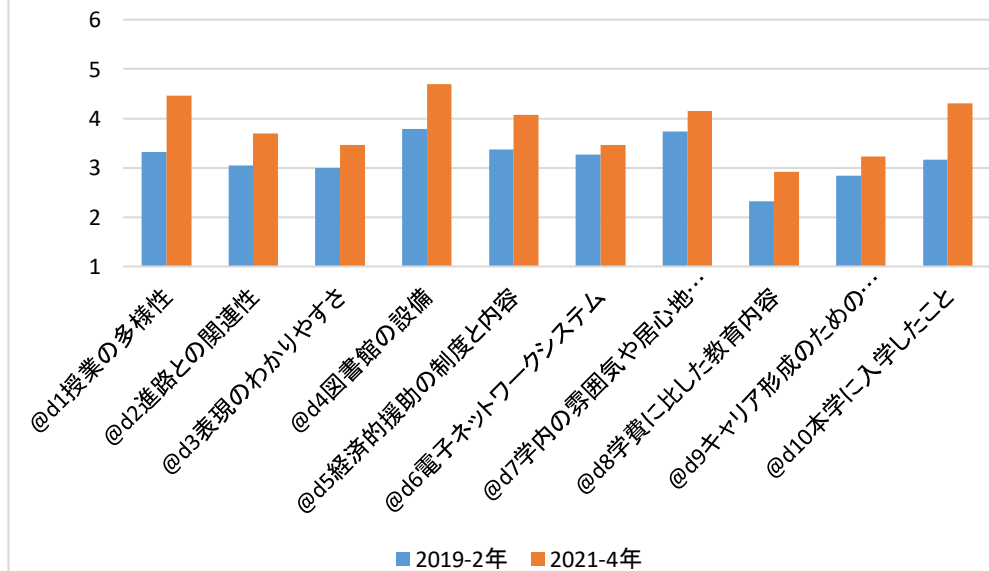


図17.希望

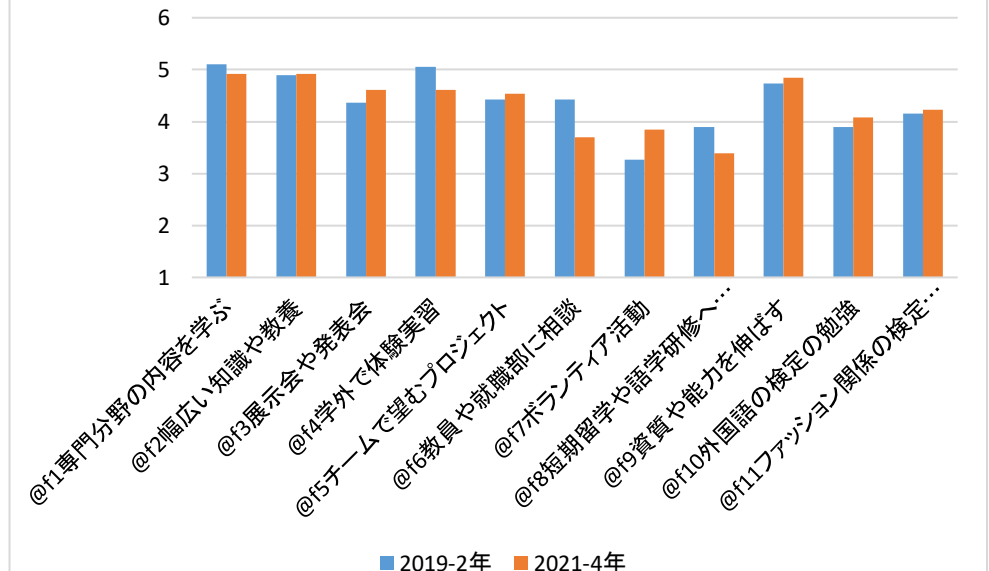


図18～図21 表現学科 2019年度生の2019-2021の平均値

図18.経験

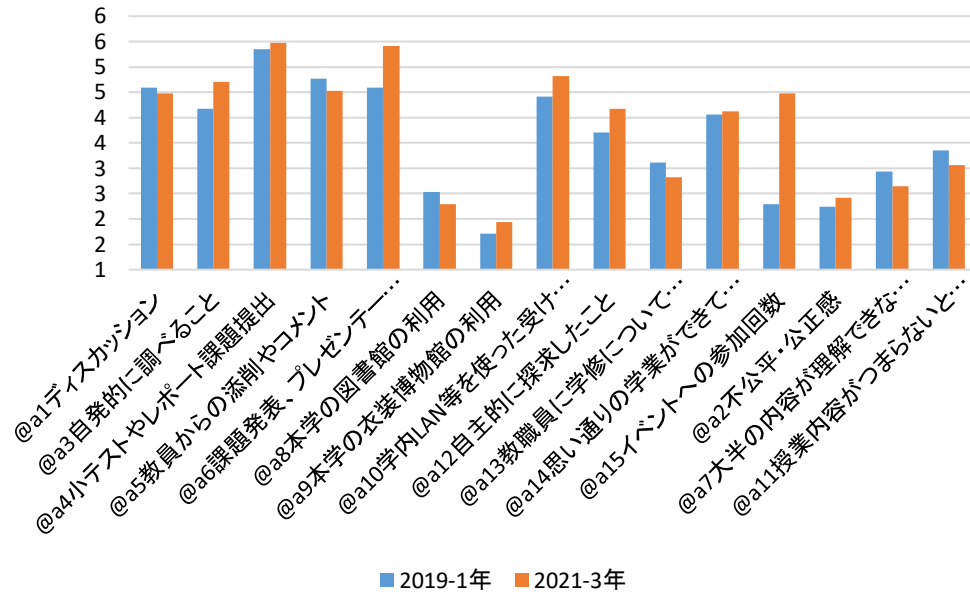


図19.成長

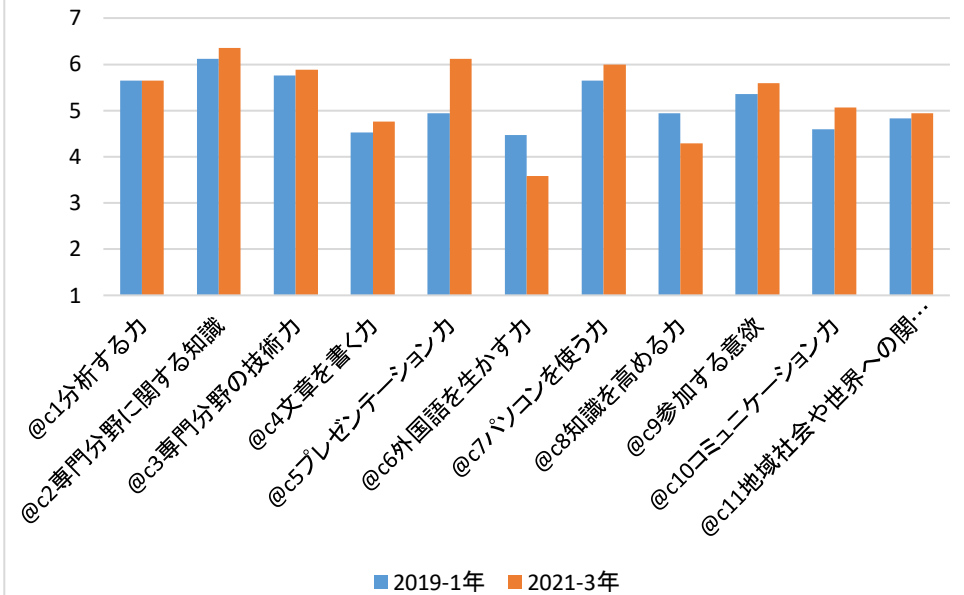


図20.満足

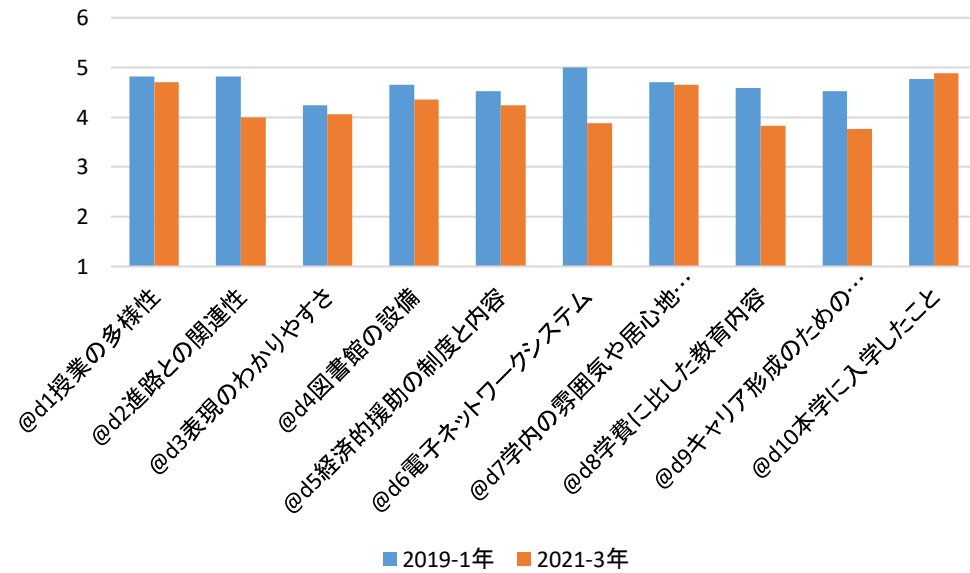


図21.希望

